

Vascular-Access

**バスキュラーアクセス作製・治療外来
新設のご案内**

医療法人あかね会 土谷総合病院

Vascular-Access

この度、バスキュラーアクセス作製・治療外来を新設することとなりました。診療内容につきましてご説明させていただきます。バスキュラーアクセスに関するご相談、ご紹介賜りますようよろしくお願い申し上げます。

診療内容：バスキュラーアクセスに関する手術 経皮的血管拡張術（PTA）

（１）手術

入院治療が原則です。手術室にて行います。

麻酔方法：局所麻酔、神経ブロック。

神経ブロック：エコー下に上腕部を穿刺し、神経周囲に麻酔薬を浸潤させます。

※広範囲の麻酔を行うことができます。

術後疼痛管理：鎮痛剤を適宜内服頂きます。

治療内容：自己血管動静脈瘻（内シャント）作製および修復、人工血管動静脈瘻作製および修復。シャント瘤手術。シャント感染に関する手術。過剰血流に対する手術等。



手術室

（２）経皮的血管拡張（PTA）

血管撮影室にて行います。

麻酔方法：局所麻酔。状況に応じ、鎮痛剤の注射。

シャント閉塞症例、出血傾向のある症例、緊急症例、遠隔地からお越しの方等は入院頂くようにしております。

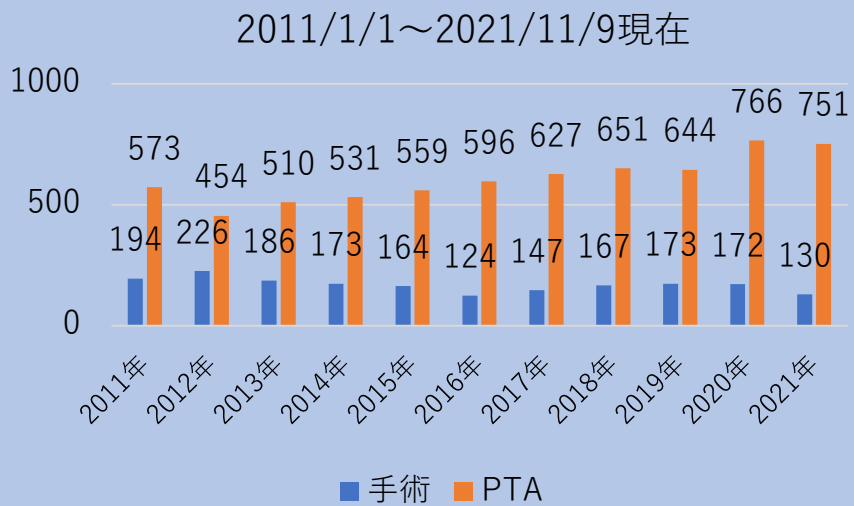
治療内容：バルーンカテーテルによる拡張術、血栓溶解術・血栓吸引術・血栓除去術等、人工血管静脈側吻合部に対するステントグラフト留置術等。



カテーテル室

当科の取り組み

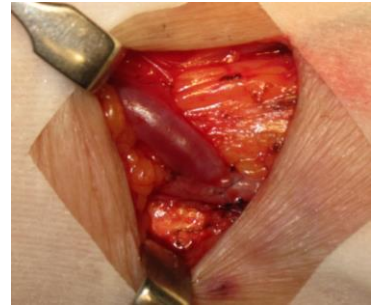
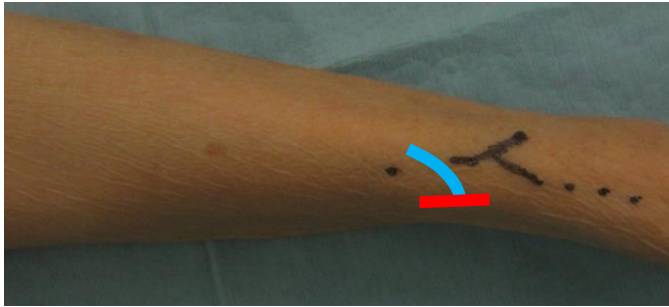
1. 手術は外科医が担当し、経皮的血管拡張術は外科医・内科医が行います。ともに、十分な経験のある医師が対応致します。経皮的血管拡張術により合併症を生じた場合でも、自施設での速やかな外科的手術対応が可能です。
2. 経皮的血管拡張術は、X線撮影装置と超音波診断装置の併用を行い、より安全で確実な血管拡張術を目指します。超音波診断装置を併用することにより、患者様の被曝の軽減を図ることができます。
3. 造影剤アレルギー既往のある患者様の経皮的血管拡張術に関しては、造影剤を使用せず、超音波診断装置を用いて施行させて頂いております。やむなく造影剤を使用する場合は、事前にステロイドを投与致します。
4. 中心静脈病変に関しては、放射線科医と連携し対応致します。また、造影剤アレルギー既往のある方の中心静脈病変に関しては、炭酸ガスの使用、ステロイド投与した上で造影剤を使用するなどの対応をしながら治療を行います。
5. 経皮的血管拡張術では、開存期間延長効果が期待されている新規のデバイスを、対象になる病変に関して積極的に使用しております。



PTA件数は増加傾向にあり、2020年度は766件でした。

Vascular-Access

自己血管動静脈瘻（自己血管内シャント）作製

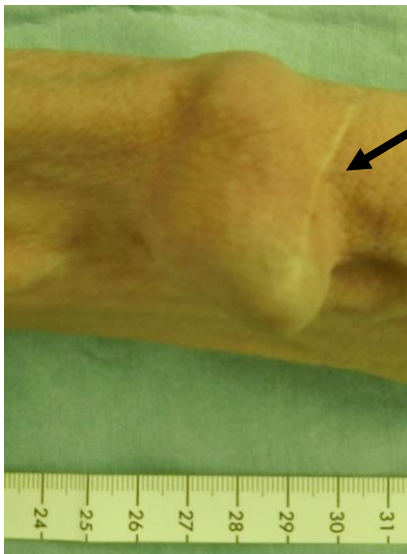


橈骨動脈-橈側皮静脈：側端吻合
吻合径6mm

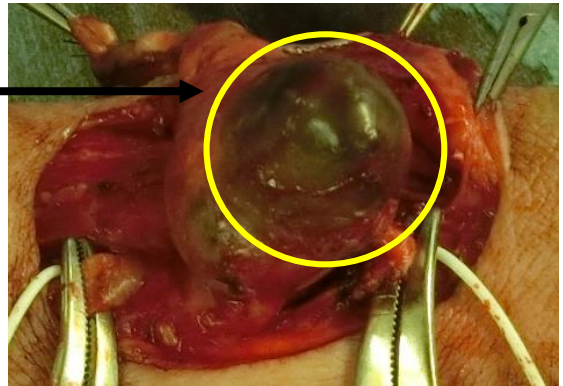
人工血管動静脈瘻（人工血管内シャント）作製



上腕動脈-人工血管-上腕静脈：側端吻合



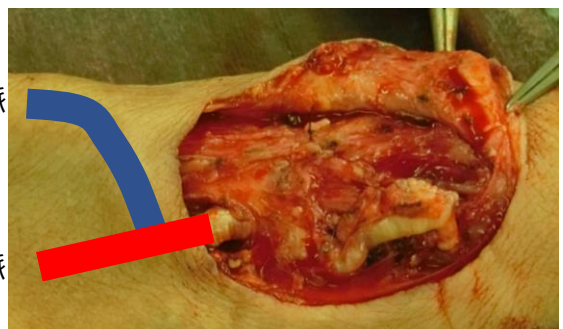
瘤



瘤の切迫破裂状態にて、中枢再建、
瘤切除術を行いました。

橈側皮静脈

橈骨動脈



経皮的血管拡張術（PTA）

橈骨動脈－撓側皮静脈動静脈瘻の吻合部流出路狭窄。
5mmバルーンカテーテルにて拡張し、血流改善しました。



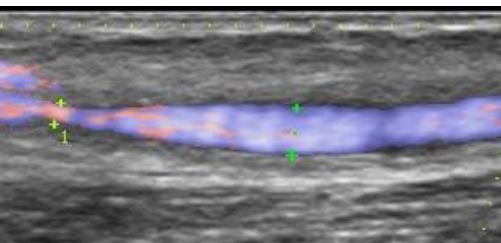
PTA前



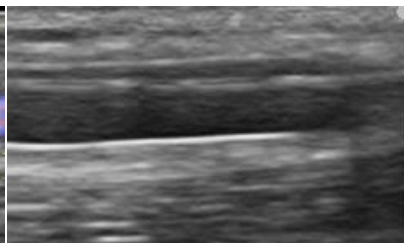
PTA後

造影剤アレルギー症例のエコー下経皮的血管拡張術

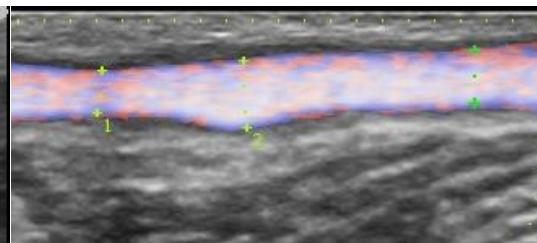
PTA前



バルン拡張中



PTA後

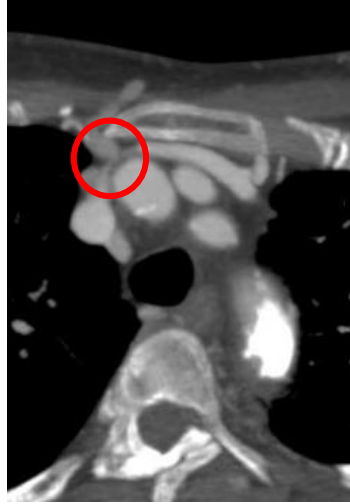
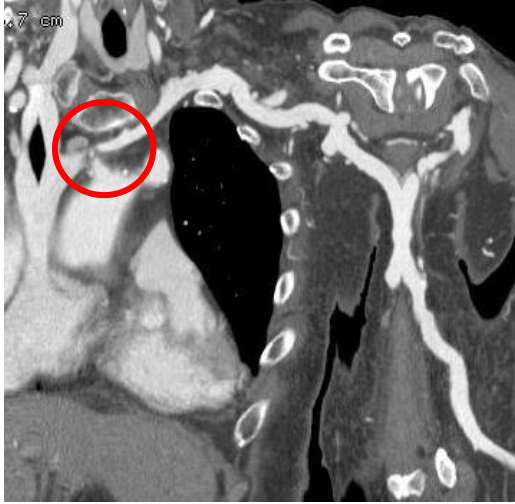


エコー下にPTAを行い、血管の拡張を認めました。
血流量は258ml/minから479ml/minに増加し、血管抵抗指数は0.885から0.652に低下しました。

※X線は使用せず、患者様の被曝はございません。

中心静脈病変に対する経皮的血管拡張術

事前に血管造影CTを撮像し、病変の状態把握を行います。
本症例は左腕頭静脈に高度の圧排狭窄を認めました。



左腕頭静脈の高度狭窄に対し、血管拡張・ステント留置を行い、血流が改善しました。



拡張前



拡張後

新しいデバイスの使用

バスキュラーアクセスの治療に関し、新規の製品が保険適応となり、当院でもこれらを積極的に使用し、患者様によりよい治療を目指しております。

当院は、下記の製品使用についての施設基準を満たしており、術者基準を満たした者（日本透析アクセス医学会VA血管内治療認定医、日本透析医学会専門医などの資格を有し、その他の基準を満たした者）が手技を行います。

1) 薬剤コーティングバルーンカテーテル

抗増殖薬を塗布したPTAバルーンカテーテルを使用することにより、再狭窄を抑制することが期待されています。



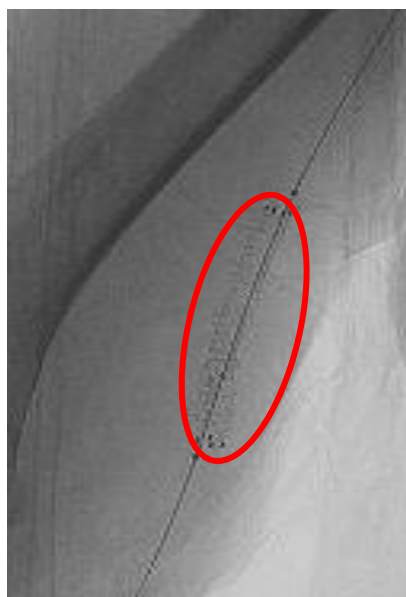
再狭窄を生じる病変に対し、従来型のバルーンカテーテルで拡張した後に、薬剤コーティングバルーンカテーテルを使用することにより、抗増殖作用のあるパクリタキセルを血管壁へと浸透させ、再狭窄を抑制する効果が期待されています。

2) ステントグラフト

人工血管内シャントの静脈側吻合部における狭窄または閉塞の治療に用いることにより、開存期間の延長が期待されています。



人工血管静脈側吻合部から吻合部流出路にかけて、高度の狭窄を認めています。



人工血管静脈側吻合部から吻合部流出路にかけて、バルーンカテーテルにて拡張後、ステントグラフトを挿入しました。



挿入後の造影、エコーで良好な血流を確認できました。

バスキュラーアクセス（透析シャント）作製・治療外来

血液透析に欠かすことのできないバスキュラーアクセスの作製、維持に関する様々な問題について、診察、診断を行い、治療方針を決定し、治療致します。

バスキュラーアクセスに関することについてお困りのことがあれば、是非ともお気軽にお声がけ下さい。

診療時間	月	火	水	木	金
9:00~17:30	○	○	○	○	○

※土曜日、休日は緊急症例を対象

外来担当医

診療日	月	火	水	木	金
担当医	川西 新宅	新宅	川西 番匠谷	新宅	新宅 番匠谷 川井

連絡先 : 土谷総合病院 月～金 : 北外来
電話番号 : 082-243-9191 土祝日 : 当直師長

川西 秀樹

副院長・本部事務局 透析事業部本部長

資格 :

日本外科学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本腹膜透析医学会 認定医

新宅 究典

腎・血液浄化療法科 主任部長

資格 :

日本外科学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本腹膜透析医学会 認定医

日本透析アクセス医学会 VA血管内治療認定医

透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会

VAIVT認定専門医

番匠谷 将孝

腎・血液浄化療法科 部長

資格 :

日本外科学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本透析アクセス医学会 VA血管内治療認定医

佐藤 友保

放射線科 部長

資格 :

日本医学放射線学会認定 放射線診断専門医

日本血管造影インターベンション(IVR)学会 専門医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

腹部大動脈ステントグラフト指導医

胸部大動脈ステントグラフト指導医